

八学短大生100人 練習に熱



八戸小唄流し踊りの練習をする学生たち

八戸小唄流し踊り 来月13日

7月13日に八戸市中心街で開催される「第48回八戸小唄流し踊り」(東奥日報社主催)に踊り手として参加する八戸学院大学短期大
学部
の学生たちの練習が5

日、始まった。幼児保育学科の1年生約100人が、優雅な足運びや手の動きなどを日本舞踊の師範から学んだ。
同
学
部
の
参
加
は、
前
身
の
八
戸
学
院
短
期
大
学
か
ら
数
え

て11回目。学生たちは八戸小唄流し踊り開催までの約1カ月間、体育の授業を活用して練習する。

5日に体育館で行った練習では、日本舞踊泉流師範の泉紫峰さん、彩菜さん親子が講師を務めた。2人は学生たちに「手は舞い降りるカモメをイメージして」「指先は親指もしっかりそろえて」とアドバイス。初めはぎこちなかった学生たちも、徐々に動きを覚えて楽しそうに踊っていた。

初めて参加するという鈴木木絢菜さん(18)は「手足の動きや視線の向きが難しいけど、本番までにしつかりと踊れるようにしたい」と笑顔で話した。

八戸七夕まつりの前夜祭として行われる八戸小唄流し踊りは、八戸小唄の誕生40周年を記念して1971(昭和46)年から毎年開催されている。今年7月13日午後5時半から、市地域婦人会や舞踊関係者ら約800人が同市十三日町から三日町まで踊りを披露する。

(工藤俊介)